

平成30年9月4日
警察庁

「平成29年度犯罪被害類型別調査」について

1 調査概要

- (1) 目的 犯罪被害類型別に、犯罪被害者等の置かれた状況について調査を実施し、各府省庁の施策の企画立案の参考とする。
- (2) 期間 平成30年1月19日から同月28日までの間
- (3) 対象 DV、ストーカー、児童虐待、性的な被害、交通事故及び殺人又は傷害等のうち、いずれかの犯罪等被害を受けた者又はその遺族等
- (4) 回収結果 有効回答数1,696人
- (5) 方法 20歳以上の者に対するインターネットを利用したアンケート調査
- (6) その他 本調査に係る企画及び分析については、有識者等を構成員とする企画分析会議を設置し、そこでの議論・検討に基づいて実施した。構成員は以下のとおり。

座長 辰野 文理（国士舘大学法学部教授）

委員 齋藤 梓（目白大学人間学部心理カウンセリング学科専任講師）

島田 貴仁（科学警察研究所犯罪行動科学部犯罪予防研究室室長）

白岩 祐子（東京大学人文社会系研究科社会心理学研究室専任講師）

中島 聡美（福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター特命准教授）

中土 美砂（被害者支援都民センター犯罪被害相談員・犯罪被害者遺族）

阿波 亮子（警察庁長官官房参事官（犯罪被害者等施策担当））

※ 敬称略順不同、所属及び役職名は平成30年3月時点のもの。

2 結果概要

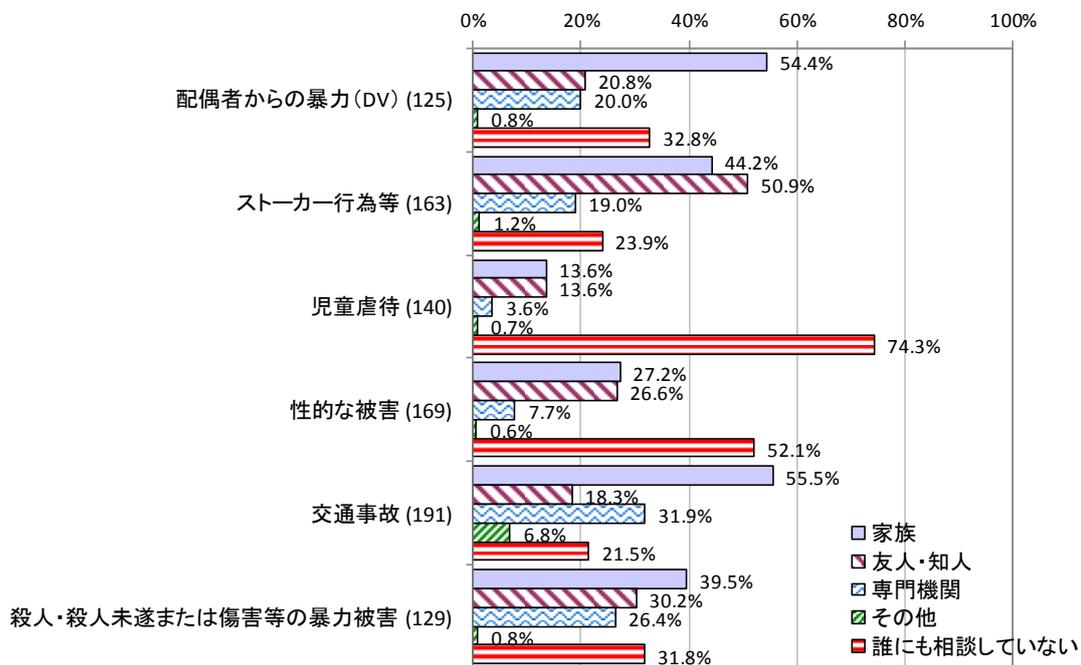
(1) 相談状況

ア 相談相手・機関

被害に遭った際の相談状況について、「どこにも（誰にも）相談していない」との回答比率は、児童虐待が74.3%、性的な被害が52.1%で高くなっている一方、交通事故は21.5%、ストーカー行為等は23.9%で低くなっている。

また、相談相手・機関については、全ての犯罪被害類型で「母」との回答比率が最も高く、配偶者からの暴力及び交通事故では「家族」が、ストーカー行為等及び殺人・傷害では「家族」及び「友人・知人」が、それぞれ高くなっている。

さらに、交通事故及び殺人・傷害では、警察等の「専門機関」も高くなっている。



イ 相談しなかった理由

「どこにも（誰にも）相談していない」理由の回答比率については、配偶者からの暴力では「他人に知られたくなかった」（47.5%）及び「おおごとにしたくなかった」（47.5%）が、ストーカー行為等では「どこに相談すればよいかわからなかった」（23.7%）及び「相談するほどのことではないと思った」（23.7%）が、児童虐待では「低年齢であったため、相談することを思い至らなかった」（73.1%）が、性的な被害では「他人に知られたくなかった」（29.5%）が、交通事故及び殺人・傷害では「特に理由はない」（それぞれ24.4%、27.5%）が、それぞれ高くなっている。

| | 全体 | どこに相談すればよいかわからなかった | 自分が被害にあっていることに気が付かなかった | 相談するほどのことではないと思った | 自分で解決できると思った | 被害について誰かに話すことが恥ずかしかった | 他人に知られたくなかった | おおごとにしたくなかった |
|--------------------|-----|-------------------------|------------------------|-------------------|------------------------|---------------------------|----------------|----------------|
| 全体 | 351 | 80 (22.8%) | 33 (9.4%) | 67 (19.1%) | 27 (7.7%) | 64 (18.2%) | 69 (19.7%) | 66 (18.8%) |
| 配偶者からの暴力（DV） | 40 | 10 (25.0%) | 7 (17.5%) | 16 (40.0%) | 6 (15.0%) | 17 (42.5%) | 19 (47.5%) | 19 (47.5%) |
| ストーカー行為等 | 38 | 9 (23.7%) | 2 (5.3%) | 9 (23.7%) | 7 (18.4%) | 7 (18.4%) | 8 (21.1%) | 6 (15.8%) |
| 児童虐待 | 104 | 27 (26.0%) | 14 (13.5%) | 10 (9.6%) | 3 (2.9%) | 13 (12.5%) | 10 (9.6%) | 9 (8.7%) |
| 性的な被害 | 88 | 20 (22.7%) | 9 (10.2%) | 22 (25.0%) | 4 (4.5%) | 24 (27.3%) | 26 (29.5%) | 24 (27.3%) |
| 交通事故 | 41 | 8 (19.5%) | 0 (0.0%) | 8 (19.5%) | 7 (17.1%) | 1 (2.4%) | 2 (4.9%) | 0 (0.0%) |
| 殺人・殺人未遂または傷害等の暴力被害 | 40 | 6 (15.0%) | 1 (2.5%) | 2 (5.0%) | 0 (0.0%) | 2 (5.0%) | 4 (10.0%) | 8 (20.0%) |
| | | 言っても何もしてくれない／役に立たないと思った | 加害者からの仕返しが怖かった | 加害者から相談するなと脅されていた | 自分が悪いと思った、自分に責任があると思った | 低年齢であったため、相談することを思い至らなかった | 特に理由はない | その他 |
| 全体 | 55 | 45 (15.7%) | 10 (12.8%) | 37 (2.8%) | 112 (10.5%) | 34 (31.9%) | 21 (9.7%) | 21 (6.0%) |
| 配偶者からの暴力（DV） | 9 | 6 (22.5%) | 2 (15.0%) | 2 (5.0%) | 8 (20.0%) | 1 (2.5%) | 1 (2.5%) | 2 (5.0%) |
| ストーカー行為等 | 7 | 5 (18.4%) | 1 (13.2%) | 1 (2.6%) | 4 (10.5%) | 1 (2.6%) | 4 (10.5%) | 2 (5.3%) |
| 児童虐待 | 19 | 17 (18.3%) | 17 (16.3%) | 2 (1.9%) | 14 (13.5%) | 76 (73.1%) | 4 (3.8%) | 2 (1.9%) |
| 性的な被害 | 12 | 10 (13.6%) | 10 (11.4%) | 4 (4.5%) | 9 (10.2%) | 23 (26.1%) | 4 (4.5%) | 5 (5.7%) |
| 交通事故 | 1 | 0 (2.4%) | 0 (0.0%) | 0 (0.0%) | 1 (2.4%) | 5 (12.2%) | 10 (24.4%) | 5 (12.2%) |
| 殺人・殺人未遂または傷害等の暴力被害 | 7 | 7 (17.5%) | 7 (17.5%) | 1 (2.5%) | 1 (2.5%) | 6 (15.0%) | 11 (27.5%) | 5 (12.5%) |

ウ 相談しやすくなるための条件

自治体や民間の相談機関・団体に相談しやすくなるための条件の回答比率について犯罪被害類型別にみると、性的な被害（54.9%）、DV（53.0%）、ストーカー（50.0%）で「周りの人に知られずに相談できること、プライバシーが守られること」が最も高く、児童虐待（61.3%）、交通事故（59.4%）、殺人・傷害（49.5%）では「無料で相談できること」が最も高い。

| | 全体 | 希望する性別の職員に対応してもらえること | 周りの人に知られずに相談できること（個室での対応等）、プライバシーが守られること | メールやソーシャルメディア（ツイッターやフェイスブックなど）で相談できること | 相談窓口の場所や時間が日頃から広報・周知されること | 相談窓口が近くにあること | 夜間や休日でも相談できること | 相談した後にカウンセリングも受けられること | 無料で相談できること | その他 |
|--------------------|-----|----------------------|--|--|---------------------------|-----------------|-----------------|-----------------------|-----------------|---------------|
| 全体 | 814 | 257 (31.6%) | 382 (46.9%) | 218 (26.8%) | 276 (33.9%) | 328 (40.3%) | 305 (37.5%) | 232 (28.5%) | 415 (51.0%) | 39 (4.8%) |
| 配偶者からの暴力（DV） | 100 | 32 (32.0%) | 53 (53.0%) | 32 (32.0%) | 30 (30.0%) | 31 (31.0%) | 32 (32.0%) | 35 (35.0%) | 45 (45.0%) | 4 (4.0%) |
| ストーカー行為等 | 146 | 48 (32.9%) | 73 (50.0%) | 40 (27.4%) | 38 (26.0%) | 58 (39.7%) | 52 (35.6%) | 41 (28.1%) | 62 (42.5%) | 4 (2.7%) |
| 児童虐待 | 137 | 37 (27.0%) | 66 (48.2%) | 40 (29.2%) | 63 (46.0%) | 62 (45.3%) | 63 (46.0%) | 46 (33.6%) | 84 (61.3%) | 10 (7.3%) |
| 性的な被害 | 164 | 82 (50.0%) | 90 (54.9%) | 57 (34.8%) | 61 (37.2%) | 78 (47.6%) | 56 (34.1%) | 46 (28.0%) | 76 (46.3%) | 2 (1.2%) |
| 交通事故 | 160 | 30 (18.8%) | 52 (32.5%) | 20 (12.5%) | 46 (28.8%) | 59 (36.9%) | 56 (35.0%) | 38 (23.8%) | 95 (59.4%) | 12 (7.5%) |
| 殺人・殺人未遂または傷害等の暴力被害 | 107 | 28 (26.2%) | 48 (44.9%) | 29 (27.1%) | 38 (35.5%) | 40 (37.4%) | 46 (43.0%) | 26 (24.3%) | 53 (49.5%) | 7 (6.5%) |

(2) 被害や支援・制度の利用状況やニーズ

ア 支援を受けた／制度を利用した機関・団体

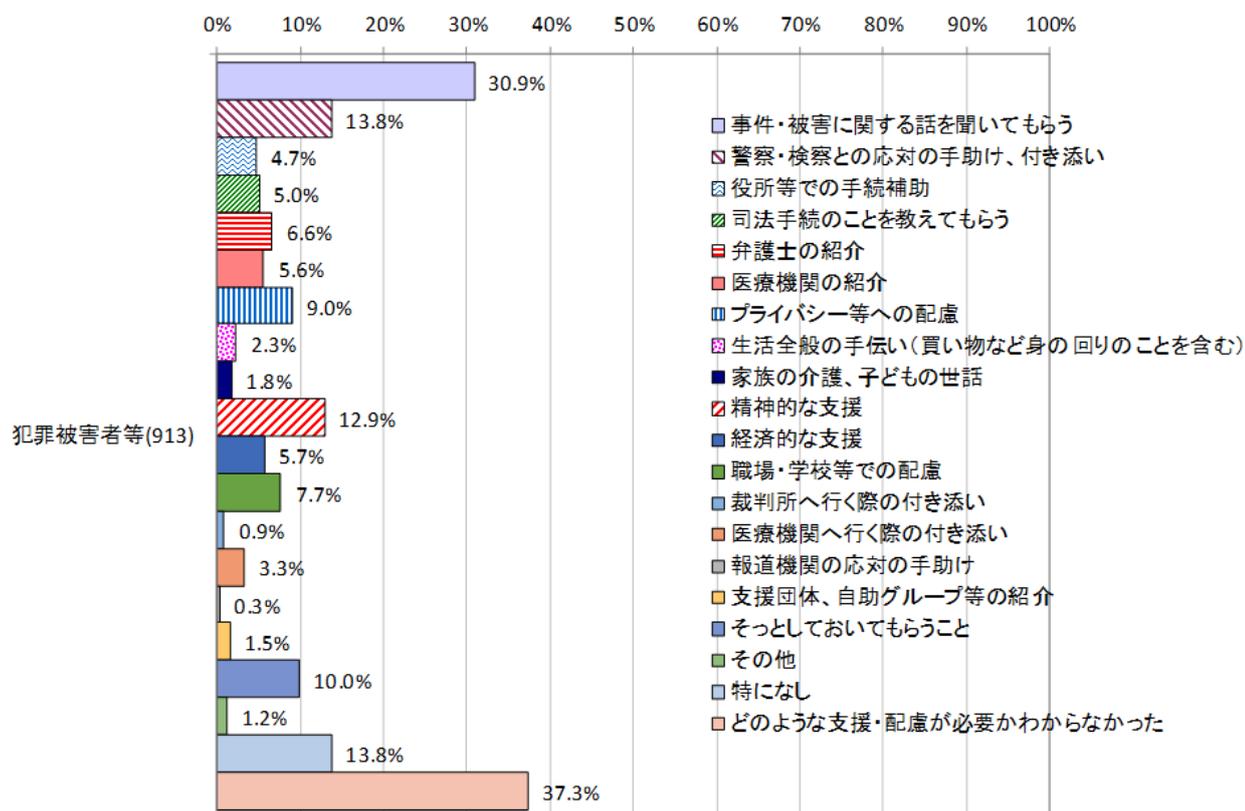
犯罪被害類型別に、支援を受けた又は制度を利用した機関・団体をみると、支援を受けた回答者の中では、DVでは「法テラス」(8.9%)、ストーカー、性的な被害、交通事故、殺人・傷害では「警察」(各12.4%、9.5%、21.1%、19.0%)、児童虐待では「学校・職場」(5.0%)との回答比率が最も高くなっている。

| | 全体 | 警察 | 検察庁 | 裁判制度 | 法テラス | 弁護士会 |
|--------------------|--------------|-----------------|--------------|---------------------|----------------|-------------------------------|
| 全体 | 910 | 111 (12.2%) | 19 (2.1%) | 15 (1.6%) | 51 (5.6%) | 25 (2.7%) |
| 配偶者からの暴力(DV) | 124 | 7 (5.6%) | 0 (0.0%) | 5 (4.0%) | 11 (8.9%) | 2 (1.6%) |
| ストーカー行為等 | 161 | 20 (12.4%) | 4 (2.5%) | 0 (0.0%) | 9 (5.6%) | 4 (2.5%) |
| 児童虐待 | 140 | 4 (2.9%) | 0 (0.0%) | 1 (0.7%) | 4 (2.9%) | 1 (0.7%) |
| 性的な被害 | 169 | 16 (9.5%) | 5 (3.0%) | 3 (1.8%) | 6 (3.6%) | 4 (2.4%) |
| 交通事故 | 190 | 40 (21.1%) | 4 (2.1%) | 3 (1.6%) | 10 (5.3%) | 8 (4.2%) |
| 殺人・殺人未遂または傷害等の暴力被害 | 126 | 24 (19.0%) | 6 (4.8%) | 3 (2.4%) | 11 (8.7%) | 6 (4.8%) |
| | | 地方自治体・福祉機関・医療機関 | 学校・職場 | 民間支援団体・被害者団体・自助グループ | その他 | いずれの機関・団体の支援も受けていない／制度も使っていない |
| 全体 | 50 (5.5%) | 32 (3.5%) | 18 (2.0%) | 5 (0.5%) | 702 (77.1%) | |
| 配偶者からの暴力(DV) | 8 (6.5%) | 1 (0.8%) | 0 (0.0%) | 0 (0.0%) | 101 (81.5%) | |
| ストーカー行為等 | 11 (6.8%) | 3 (1.9%) | 4 (2.5%) | 1 (0.6%) | 123 (76.4%) | |
| 児童虐待 | 4 (2.9%) | 7 (5.0%) | 4 (2.9%) | 0 (0.0%) | 122 (87.1%) | |
| 性的な被害 | 6 (3.6%) | 5 (3.0%) | 2 (1.2%) | 2 (1.2%) | 144 (85.2%) | |
| 交通事故 | 9 (4.7%) | 8 (4.2%) | 3 (1.6%) | 2 (1.1%) | 131 (68.9%) | |
| 殺人・殺人未遂または傷害等の暴力被害 | 12 (9.5%) | 8 (6.3%) | 5 (4.0%) | 0 (0.0%) | 81 (64.3%) | |

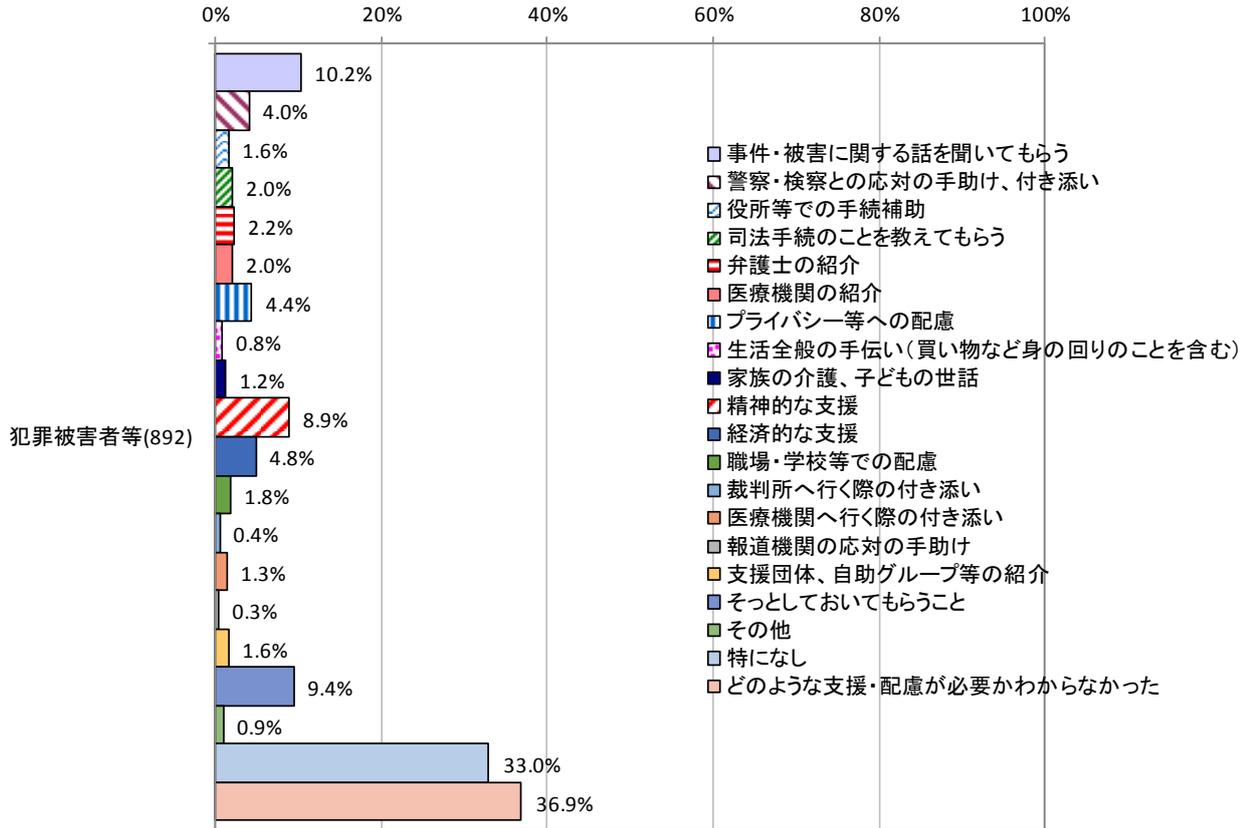
イ 被害直後と現在の支援ニーズ

被害直後に必要とした又は現在必要としている手助け・支援を尋ねたところ、被害直後の支援ニーズについては、「事件・被害に関する話を聞いてもらう」(30.9%)との回答比率が最も高い。他方で、被害直後と現在の支援ニーズについては、「どのような支援・配慮が必要かわからなかった」との回答比率もそれぞれ約4割と高くなっている。

<被害を受けた直後>



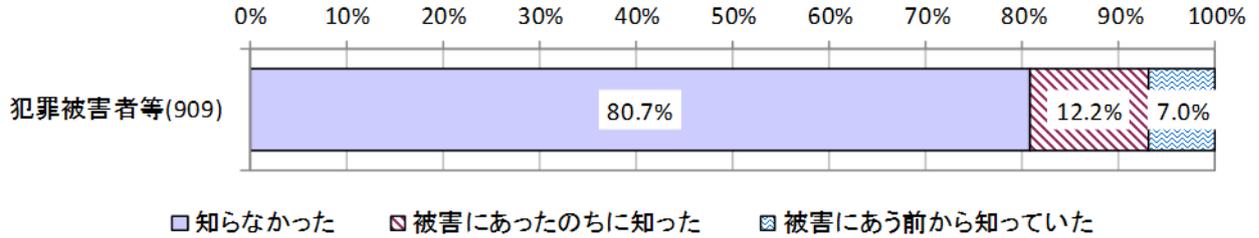
<現在>



(3) 総合的対応窓口の認知状況

ア 総合的対応窓口の認知度

総合的対応窓口の認知状況としては、「知らなかった」(80.7%)との回答比率が約8割と高くなっている。



イ 総合的対応窓口を知ったきっかけ

総合的対応窓口を知ったきっかけとしては、「テレビ・ラジオ」(24.6%)との回答比率が最も高く、次いで「地方自治体の広報誌・チラシ・パンフレット等」(18.3%)、「周りの人に教えてもらった」(17.1%)となっている。

